

戦争に学び次世代につなぐ

図 市生涯学習課 TEL 32-1899

終戦から77年がたち、戦争を経験した人々が少なくなりました。今日、世界中のあらゆる地域で紛争やテロが発生し、武力による脅威は消えません。戦争について学び、次世代に引き継いでいくことが、戦争を知らない世代の使命ではないでしょうか。

結城市では、平成28年度から小山市、野木町と合同で広島平和記念式典に中学生を派遣しています。この事業は、平和都市宣言事業の一つとして、戦争の悲しさ、原爆の恐ろしさ、平和の尊さ学んでもらうため、中学生を広島平和記念式典に派遣し、平和活動のリーダーとしての成長を促すことを目的としています。派遣団は、広島市原爆死没者慰霊式、平和祈念式へ参列するほか、平和記念資料館や原爆ドーム、原爆死没者慰霊碑（平和都市記念碑）などを見学したり、被爆者の講話を受講する予定です。派遣で学んだことや体験したことを中学校で発表します。

次世代を担う中学生は、戦争や平和についてどのように考えているのでしょうか。また、広島派遣ではどのようなことを学んできたと思っているのでしょうか。派遣団の皆さんに聞いてみました。



「原爆の子の像」（平成30年度）
各中学校で製作した千羽鶴を原爆の子の像に奉納しました。



「原爆ドーム」（令和元年度）
原爆ドームの前で派遣団の集合写真を撮影しました。



結城中 勝政あかりさん

どうして戦争は起きるのか。なぜ繰り返され人々は悲しまなければならないのか。どうしたらみんなが笑顔で平和に暮らせる世界になれるのだろうか。一瞬で多くの人々の命を奪った原爆とはどんなものなのか、直接、自分の目で見て感じ、学びたいのです。

私は将来、教師になりたいと思っています。生徒たちに平和の尊さをしっかりと伝えられる大人になりたいです。



結城東中 阿良山芽衣夏さん

私の曾祖母は戦争経験者で、その存在は、戦争が歴史上の出来事ではなく、現実にあった出来事なのだ戦争を身近なものとして考えるきっかけになりました。

最近のニュースを見て、戦争と平和について真剣に考えるようになりました。戦争について何も知らない私ですが、興味を持った今を大切に、広島で戦争について学ぶことが、平和に向けて私にできる最初の一步ではないかと思っています。



結城南中 清水葵衣さん

多くの尊い命が失われているというニュースが流れる中、かつて日本も太平洋戦争や第二次世界大戦で民間人を巻き込む激しい戦闘が何年も続き、多くの命が失われました。

一つの爆弾で何万人の命が失われるほど、戦争は恐ろしく、悲惨であることを、広島平和式典に参加することで実際に学び、この先、戦争は二度としてはならないということ、命の大切さを伝えていきたいです。

どうして戦争は起きるのか。

なぜ繰り返され人々は悲しまなければならないのか。

どうしたらみんなが笑顔で平和に暮らせる世界になれるのだろうか。



原爆死没者慰霊と平和記念のために黙とうを

日本は原子爆弾(原爆)が投下された世界で唯一の国です。このような悲惨な出来事が二度と繰り返されないよう、結城市は昭和62年に「核兵器廃絶平和都市」を宣言しました。

核兵器の廃絶と世界平和を願い、広島市と長崎市への原爆投下時刻と終戦の日に、1分間の黙とうにご協力をお願いします。



●日時 8月 6日 8:15 から
8月 9日 11:02 から
8月15日 12:00 から
●問合先 市秘書課 TEL 34-0309



核兵器廃絶平和都市宣言文（市役所）